

校長あいさつ

本校は、昭和 52 年（1977 年）4月に知的障害児教育を行う沖縄県立宮古養護学校として開校しました。今年度、創立50周年という大きな節目の年を迎えます。開校以来、保護者や地域の皆様、関係機関の温かいご支援のもと、宮古地域の特別支援教育の拠点として歩みを重ねてまいりました。平成21年には宮古特別支援学校へ校名を変更し、翌平成22年からは、これまでの知的障害に加えて、視覚・聴覚・肢体不自由・病弱を含む5障害種に対応する特別支援学校として教育実践に取り組んでまいりました。

令和8年度の在籍数は、幼稚部3名、小学部44名、中学部19名、高等部31名、合計97名となっています。知的障害だけでなく、肢体不自由のある幼児児童生徒や、日常的に医療的ケアを必要とする子ども達も在籍しており、一人一人の身体の状態や健康面に十分配慮した教育の充実を図るため、看護師を配置し、主治医や医療機関、保護者との緊密な連携のもと、安全・安心を最優先に医療的ケアを実施しています。

学校は、宮古島市平良の市街地から少し距離がありますが、広大な敷地に立地しており、校舎はすべて1階建てのバリアフリー構造で、廊下は車椅子を利用している子ども達がゆったりと通行できるスペースが確保されています。また、校内には色鮮やかな南国の花が咲きほこり、小鳥のさえずりが聞こえるとともに、窓からは伊良部大橋を見渡すことができる、自然豊かな教育環境にあります。

本校では、「元気・笑顔・自立」を校訓とし、学校の教育目標として、『自立と社会参加の実現に必要な知識・技能及び態度や意欲の育成』『明るく素直でたくましく、主体的に活動できる幼児児童生徒の育成』を掲げ、幼児児童生徒一人一人の障害の状態や特性等に応じた教育を行っています。これらの目標の実現に向けて、日々の授業や学校行事、地域と連携した学習活動を通して、達成感や自己有用感を味わいながら、主体的に社会と関わる力の育成を図っていきたいと考えています。今年度は、本校の教育活動をさらに地域と結び付ける取組として、スーパーフードとして注目されているモリンガの植樹をはじめ、月桃やホーリーバジルなどの地域資源を活用した製品づくりなどを、地域の事業所等と連携して取り組む予定としています。これらの活動を通して、幼児児童生徒が地域の方々と関わりながら、働くことの意義や喜びを実感し、将来の自立や社会参加につながる力を育んでいきたいと考えています。

教職員一同、幼児児童生徒一人一人の思いや願いに寄り添い、安全・安心な学校づくりに全力で取り組んでまいります。今後とも、保護者の皆様、地域の皆様、関係機関の皆様のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、本校で学ぶすべての幼児児童生徒が、毎日を「元気」に過ごし、たくさんの「笑顔」にあふれ、自立に向けて一歩一歩成長していくことを心より願い、校長あいさつといたします。

令和8年4月

沖縄県立宮古特別支援学校
校長 大城琢也